

| | | | | | |
|-----|----|----|------|-------|-----|
| 教科名 | 国語 | 科目 | 国語演習 | 週授業時間 | 2時間 |
|-----|----|----|------|-------|-----|

1. 教科書および副教材・参考書

教科書：「新しい国語 1」（東京書籍）

副教材：「新しい国語 新出漢字の学習 1」（東京書籍）

：「国語の学習 1」（東京書籍）

：「国語便覧 千葉県版（デジタル版）」（浜島書店）

：「つまづかない！文法の学習」（新学社）

問題集：「錬成テキスト中 1」（育伸社）

2. 授業の目標および内容

日常なにげなく使っている言葉にもいろいろな法則があることを学習します。

加えて、「話す・聞く」「書く」を中心とした様々な言語活動を行い、人との関わりの中で伝え合う力を高めます。

3. 試験について

| | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 |
|------|-------|-------|--------|--------|-------|
| 定期試験 | 一次 5月 | 二次 7月 | 一次 10月 | 二次 12月 | 期末 3月 |

※内容・難易度について

①定期試験：教科書・副教材・問題集・プリントなどで、問題を作成します。

4. 課題・補習について

必要に応じて課題を出したり、補習をおこなったりします。

5. 評価の視点

定期試験を元に、小テスト、提出物、言語活動の取り組みなどを参考に平常点として、加点または減点して評価をします。

授業計画

| 学期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 備 考 |
|----|--|---|--|
| 1 | ①音声の働きや仕組み ①文法とは・言葉の単位 ①活字と書き文字・画数・筆順 ①文の成分・連文節 ②単語の分類 ②語の意味と文脈・多義語 | ○母音と子音、特殊音、音の高低による効果について理解する。 ○文章・段落・文・文節・単語など、日本語の基本的な文法事項について把握する。 ○活字の書体、画数や筆順についての知識を得る。 ○主語・述語等の文の成分、連文節や文節どうしの関係について理解する。 ○自立語と付属語の違い、各品詞が持つ性質について理解し、品詞分類表が書けるようになる。 ○文脈や多義語について知り、漢字変換や円滑な疎通ができるようにする。 | ＊教科書の漢字を中心に小テストを実施する。 ＊適宜小テストを実施し、口語文法の習熟を促す。 |
| 2 | ①中心を明確にして話そう ①話を聞いて質問しよう ②ビブリオバトル ②方言と共通語 | ○質問する際にどのような点に気をつけるべきかを学ぶ。 ○スピーチをする際の構成の仕方や練習の必要性について学ぶ。 ○愛読書と日常とのつながりを意識して、教科書で学んだ理論を実践する。 ○共通語と方言の特徴を知る。 | ＊教科書の漢字を中心に小テストを実施する。 ＊適宜小テストを実施し、口語文法の習熟を促す。 |
| 3 | 漢字の成り立ち 音読み・訓読み 漢字の部首 書写 | ○漢字の成り立ちを知ることによって、意味や読みを推測できるようになる。 ○漢字の音訓の違いを確認し、熟語の構成について考える。 ○部首の意味について理解し、漢字の意味が推測できるようになる。 ○週に1時間、書写を行う。 | ＊教科書の漢字を中心に小テストを実施する。 ＊適宜小テストを実施し、口語文法の習熟を促す。 |